



初心を忘るべからず

●今年の春期講習で、流山おおたかの森教室は開校一周年を迎えました。生徒、保護者、スタッフ、その他たくさんの方々の支援をしてくださった方々のおかげで無事に迎えることができました。ただ感謝しかありません。ありがとうございます。

●思い起こして見れば、あつという間の一年でした。ただ、私の人生の中で最も充実した一年だったように感じます。すべてが流山おおたかの森教室「初」のことでした。初授業、初定期テスト対策、初夏期講習、初教室特訓、初日曜勉強会、初……。挙げればキリがありません。

●「初」の中でも、特に初高校入試は忘れることとはないでしょう。入塾時に志望していた高校を受験した生徒、成績が伸びて偏差値の高い高校を受験した生徒、新たな志望校を見つけて受験校を変更した生徒、志望校に届かず直前で受験校を変更した生徒、さまざまでした。合格した生徒も多くいますが、全員を志望校に合格させることはできませんでした。それにも関わらず、全員、受験体験記で創学舎に対して感謝の言葉を綴ってくれて、保護者の方々もわざわざ挨拶に来てくださいました。もっと私にできることはなかったのか、否、まだまだ伝えられることがあっただろう、と正直、後悔が大きい「初」高校入試です。流山おおたかの森教室第一期卒業生には申し訳ない気持ちでいっぱいですが、

感謝の気持ちも同じくらいいっぱいです。

●これからのことを書きます。ちょうど一年前の創学舎ニュースでも書きましたが、流山おおたかの森教室は、「笑顔が集まる教室」を目指しています。日常生活では、嬉しいことや、幸せなことばかりではありません。学校で先生に怒られた、友達とけんかしたなど、イヤなこと、大変なこともたくさんあります。塾に行きたくない日だってあるかもしれません。それでも教室に来たら、先生に話を聞いてもらえる、前向きに学習に取り組める、みんなと一緒に頑張れる、自然と笑顔がこぼれる、そんな教室にしたいです。もちろん、ただ楽しければよいというわけではありません。進学塾ですから成績向上も必要です。やるときはやる、楽しむときは楽しむ、けじめをつけて、面白いや楽しいだけでなく、努力の成果が出たときの嬉しい気持ちや、達成感から出る「本当の笑顔」を集めていきたいと思っています。



●この一年間で、創学舎 流山おおたかの森教室の知名度がグッと上がり、生徒数も増えました。これも通っていたらいい生徒、保護者の口コミのおかげです。私は、もっと生徒を増やしたいです。といっても学校のように一クラス三〇人にしたいわけではありませんし、絶対にはりません。クラス数を増やして学力別クラスを細分化し、より適切なクラス編成にしたいのです。他にも、いつでも利用可能な自習専用の教室を作りたい。自転車で通塾している生徒のために駐輪場を作りたい。夢は膨らむばかりです。よ

り良い環境を作っていくことが笑顔にもつながると信じています。

●まだ一年です。まだまだ成長していきます。もっともつと笑顔を集めます。これからもよろしくお願いします。

(佐々木)



塾講師としての1年

先日、授業で来塾してくる中学生の出迎えをしていると、「隅先生！」と声をかけられました。何だか懐かしい声色でした。振り返ると、昨年度まで創学舎に通っていた卒業生でした。高校の制服を身にまとい、少しだけ大人びたその子を見て感動しました。

創学舎の塾講師として働き始めて、今年三月で一年目が終わりました。この一年は、私がイメージしていたものとはるかにかけ離れてい

ました。私は小学生のころから「先生」という職に就きたいと考えていたため、おそらく周りの人よりは将来のことについての具体的な理想像があったと思います。しかし、頭の中だけで悩んだり、考えたりすることの大半はその通りにならないのだと実感しました。

私は小学五年生の時に、「学校の先生」になることを志しました。きっかけは些細なこと、誰かに何かを教えたとき、「できた」と喜んでもらったことでした。そこから、「教える仕事」の代名詞である学校の先生になるために、必要なことを一つ一つこなしていき、大学三年生になるまではその夢のために勉強をしていました。



大学三年生になって、講義式の授業から、本格的に実習や授業の構成など、いよいよ先生になるための準備だと感じる授業が増えていきました。その中で、実際に現場で働く先生方の声や、現場で使っている指導案、実習、カリキュラムなどを通して、本当の「学校の先生」という仕事について知りました。「教える仕事」という一言では括れないほど、学校でしか満たせない需要がたくさんあります。そして、それらの需要に対応することはもちろん重要で価値ある仕事です。私は、それらの一部分が、私の「教える仕事」を志したきっかけとは少し逸れていくことに気が付きました。しかし、自分だけではなく共に戦ってきた教職仲間のことも考え、もうここまでできてしまったのには引けない、という気持ちもあり、中途半端な気持ちで毎日を通っていました。

それでも、その気持ちと決着をつけなければいけない時が来ました。それが、大学三年生の三月です。就職活動が解禁されて、周りの人達は本当の意味で、人生で一回目の「将来」を決めていきます。仲間とともに目指してきたことでも、結局最後に決断しなければいけないのは自分です。私は、教職課程を離脱し、ここで塾の先生を目指し始めました。ずっと学校教員を目指してきたので、塾講師として足りない知識や力はとても多く、今もなお学んでいる最中です。

このように、十年ちよつとの間ずっと固く決めていたイメージも、頭の中だけの想像では割と何かのきっかけですぐに変わっていったものです。

しかし、新しいことに右往左往したこの一年間はとても充実していました。皆さんの「できた！」をたくさん聞くことができ、私の理想とする「教えること」を体感したこと、塾でしか得られない厳しさや楽しさを提供したこと、一丸となって志望校を目指したこと、そして、皆さんの最後の最後まであきらめない努力を目の当たりにしたからこそ、一喜一憂を共にできたこと。そのような中で、生徒が新しい制服を身にまとい再び塾に訪れる姿はとても感慨深いものでした。

皆さんもこれから、将来について考える時が来ると思います。それぞれの職業にそれぞれの感動があります。どれが自分に合っているのかは最後の最後までわかりません。今は柔軟に、ひとつひとつ目の前のことにめいっばい取り組んでみてください。

(隅)

集団知①

● 集団知（知っている、知らないに関わらず、集団として受け入れた価値観・判断）の続きである。

● 卒業生に対して申し訳ないと思っていることは、いくつもある。前回①の勉強法を伝え切れなかった後悔を続ける。

③ 「カン」で解く習慣を治せなかった。おそらく、ほとんどの教師も親も気付いていないだろうが、「カン」で解く習慣がしみついていて生徒がかなりいる。一定レベル（主に知識があれば解ける難易度）をこえると、「カン」でやる。本人は一生懸命やっているのだが、結局迷っているだけでなかなか伸びない。くり返す教材は続けているので、知識が増える分だけ、ささやかなだが点数は上がってはいく。しかし、先述したように一定レベルをこえたら「カン」なので、解けるようにはならない。考える力をつけないと合格はおぼつかないのだが、そもそも考えることがどういふことなのか分かっていない。おそらく「考える」ということがどういふことなのか本人が分かるように説明されたこともないのだろう。

● 「カン」は勿論大事である。そして合格のためには必要なものである。ただし、「カン」を使うのは、模試と本番の入試だけにしないといけない。制限時間のなかでは、解けない難問もあるし、全く知らない知識を問われることも少なくない。そこで、ずっと立ち止まっていたら時間がなくなることに、一点でもかせげるようにすること、この両者を満たすには、解けないと判

断したとき、「カン」でやって次に行くことは必須である。

● しかし、日常の学習の中では、「カン」は避けなければならない。考えない習慣が固定され強化されるからである。例がある大学の入試問題からとってみる。

I understand what he says, but I detest his way of speaking.



④ his way of speaking (彼の話し方)

下線部の意味を選ぶ問題としよう。「ア」分らない。「イ」気に入っている。「ウ」いやだ」ここで生徒は次の三つの反応をする。④ detest だけを見て「ア」「イ」「ウ」のどれか迷う。⑤ but に注目して understand (理解する) の逆だから「ア」。「ア」は彼がいうことを理解している。しかし私は彼の話し方がいやだ(きらいだ、気に入らない)と訳して「ウ」を選ぶ。

● 正解はもちろん「ウ」。これによる生徒の声は様々である。「もつと単語を覚えなきゃ。」(でも detect は市販の単語帳にはあまりのつていない)「何故あんな話し方をするのか分からないから(イ)です。」(the way of his speaking に

「何故」の意味はない、自分でストーリーを作つてはいけない)「こんな難しい単語を出すのはおかしい。」(一定レベルの大学の英文には必ず未知の話が入っている。むしろ、それを出して考える力を見るためにあえて出題する)

● お分かりだろうか。④の生徒を⑥にし、⑥をさらに⑤まで成長させなければならぬ。しかし⑤のままだった生徒もいるし、④から⑥に成長した生徒もいるし、ずっと⑤のままだった生徒もいる。(以下次号)

(小林)

祝合格 2022年度 大学入試報告

国公立大学				私立大学					
千葉	3	茨城	2	早稲田	6	青山	2	法政	7
東京海洋	1	三重	1	東京理科	2	立教	1	芝浦工業	6
千葉県立保健医療	1	香川	1	明治	6	中央	3	その他多数合格	